

2010/5/14

柏の景気情報（平成22年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年4月分）

○ 調査期間 : 平成22年4月16日 ~ 4月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	71	66.4%
建設	19	14	73.7%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	13	59.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年4月の調査結果のポイント】

《業況DI5カ月連続で回復傾向だが依然厳しい業況》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.4(前月水準▲42.6)となり、マイナス幅が△3.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲21.0)、サービス業▲38.4(同▲40.0)である。変らない業種は、建設業▲64.2(同▲64.2)、卸小売業▲48.1(同▲48.1)である。

【建設業】からは、「4月に入り、軒並み仕入単価が上がっている。新設の工事から改修工事への交換が多い」(電気工事業)というコメントがあった。

【製造業】からは、「売上は回復してきたが、リーマンショック以前には及ばない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)といった声も寄せられた。

【卸小売業】からは、「前月は対前年比ではマイナスであるが、売上の基調は若干上向き傾向となりつつあった。気候の不順など売上に影響があったとみられる。入店客数も若干戻り傾向であり、消費者の節約疲れもあるのでは」(百貨店)、「新規開拓や販売努力をし、新学期用品が好調で前年度を上回った。次の目標は夏物衣料等の販売拡充商戦に入りました。ただ、近辺では業務縮小等の話を多く聞く」(その他の飲食料品小売業)、「3月に回復の兆しが見えた商況だが、4月に入り入店客数は前年並みの推移ではあるものの、気温の寒暖が激しく売上高は衣料品を中心に日々安定せず苦戦した。しかし、ショッピングモール全体での抽選イベントにより客単価を押し上げられる店舗も見られ、応募数も好評であった。月末にかけても新たなキャンペーンを開催し、集客を図り売上につなげていく」(各種商品小売業)といった回復の兆しを感じる声も寄せられた。

【サービス業】では、「最近お客様の好みや利用理由が多様化している上に、客単価の低下が著しい。利益が出にくい構造になりつつある」(食堂・レストラン)といったコメントがあった。

◎厳しい業況

各業種から、「依然として厳しい状況が続いています」(一般土木建築工事業)、「宴会はやや上向きも宿泊はビジネス客が減少し厳しい状況」(ホテル)、「平日の売り上げは最悪の日もあり難しい時代であることは間違いないと感じています」(酒場・ビヤホール)などの声が多数寄せられた。

◎社員採用育成

各業種から、「仕事の受注が少ない時期に正社員の育成に時間を使う、丁寧正確な仕事を覚えさせる良い時期と思う」(管工事業(さく井を除く))、「社員一人一人の現状の自覚と危機感が乏しいので経常利益減少から脱却できないでいる」(管工事業(さく井を除く))、「利益がなく苦しいが、仕事量は多く限界を感じているので、1~2名正社員の採用準備中。まさに利益とは裏腹である」(燃料小売業(ガソリンスタンド含まず))などのコメントが寄せられている。

◎景気回復実感なし

各業種から「少しも良くならないと思います」(塗装工事業)、「設備の増設がなかなか見えてこず、新聞テレビ等で言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関連業界においても、継続的な受注に至る保証がないという声が聞こえてきている」(その他の機械・同部分品製造業)などのコメントが寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲ 62.6	▲ 66.6	▲ 75.0	▲ 66.6	▲ 35.7
12月	▲ 59.2	▲ 73.3	▲ 41.1	▲ 68.9	▲ 46.6
1月	▲ 44.4	▲ 53.3	▲ 11.7	▲ 60.7	▲ 41.6
2月	▲ 44.5	▲ 64.2	▲ 17.6	▲ 58.6	▲ 28.5
3月	▲ 42.6	▲ 64.2	▲ 21.0	▲ 48.1	▲ 40.0
4月	▲ 39.4	▲ 64.2	▲ 5.8	▲ 48.1	▲ 38.4
見通し	▲ 25.3	▲ 42.8	▲ 11.7	▲ 25.9	▲ 23.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.4(前月水準▲42.6)となり、マイナス幅が△3.2ポイント縮小した。

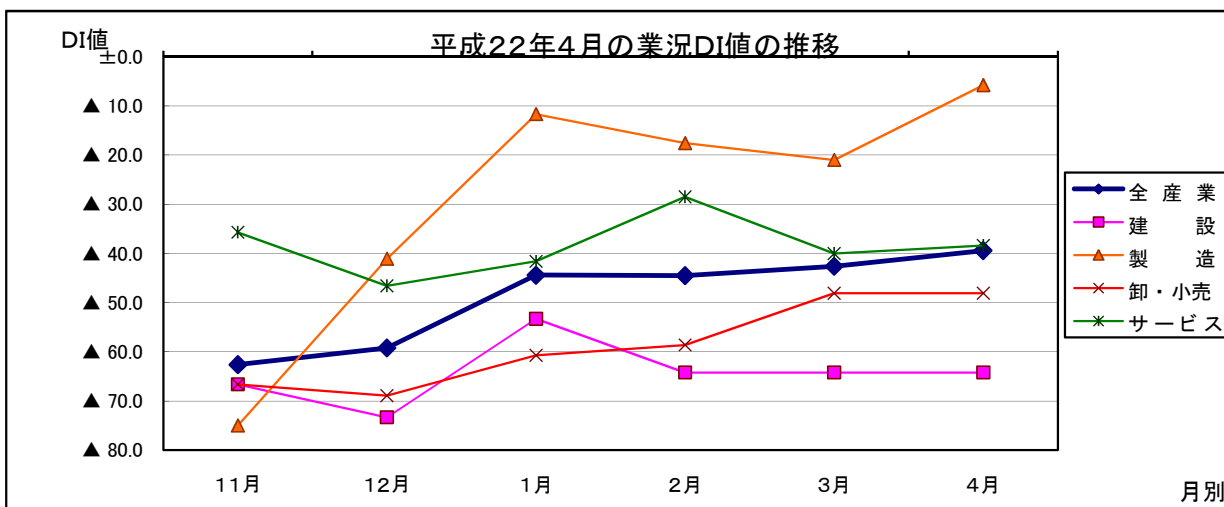
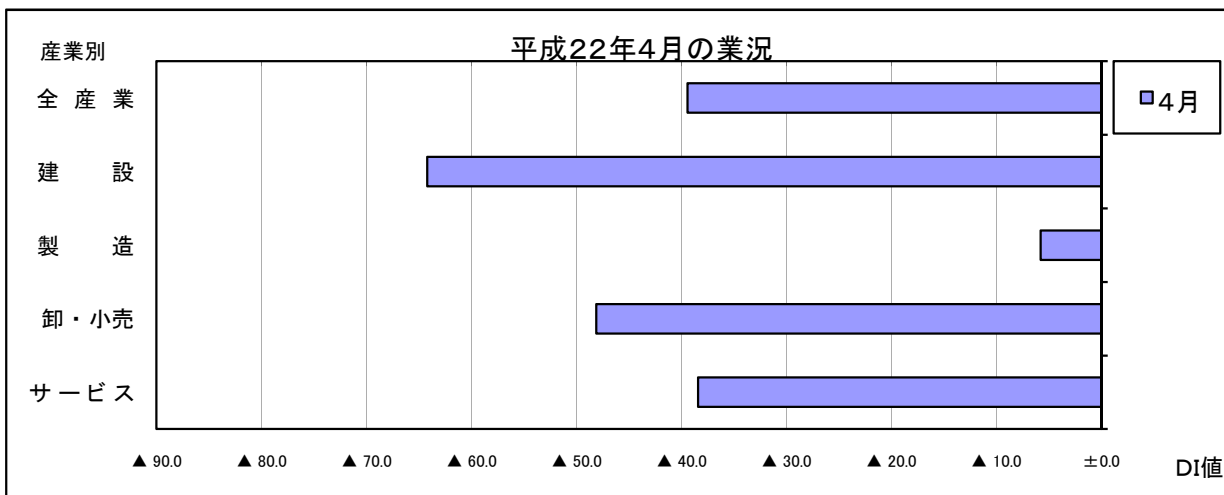
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲21.0)、サービス業▲38.4(同▲40.0)である。変らない業種は、建設業▲64.2(同▲64.2)、卸小売業▲48.1(同▲48.1)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.3(前月水準▲28.0)となり、マイナス幅が△2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲33.3)、卸小売業▲25.9(同▲33.3)、である。変らない見通しの業種は、建設業▲42.8(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.7(同▲5.2)である。

平成22年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲ 62.6	▲ 59.2	▲ 44.4	▲ 44.5	▲ 42.6	▲ 39.4	▲ 25.3 (▲ 28.0)
建設	▲ 66.6	▲ 73.3	▲ 53.3	▲ 64.2	▲ 64.2	▲ 64.2	▲ 42.8 (▲ 42.8)
製造	▲ 75.0	▲ 41.1	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 5.8	▲ 11.7 (▲ 5.2)
卸・小売	▲ 66.6	▲ 68.9	▲ 60.7	▲ 58.6	▲ 48.1	▲ 48.1	▲ 25.9 (▲ 33.3)
サービス	▲ 35.7	▲ 46.6	▲ 41.6	▲ 28.5	▲ 40.0	▲ 38.4	▲ 23.0 (▲ 33.3)



【平成22年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲41.3)となり、マイナス幅が△11.8ポイント縮小した。

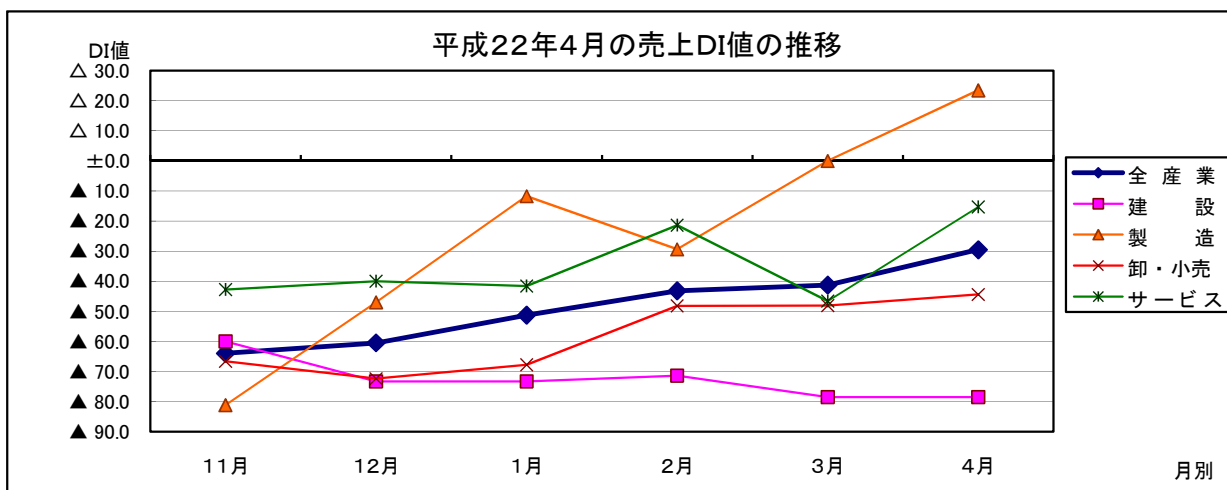
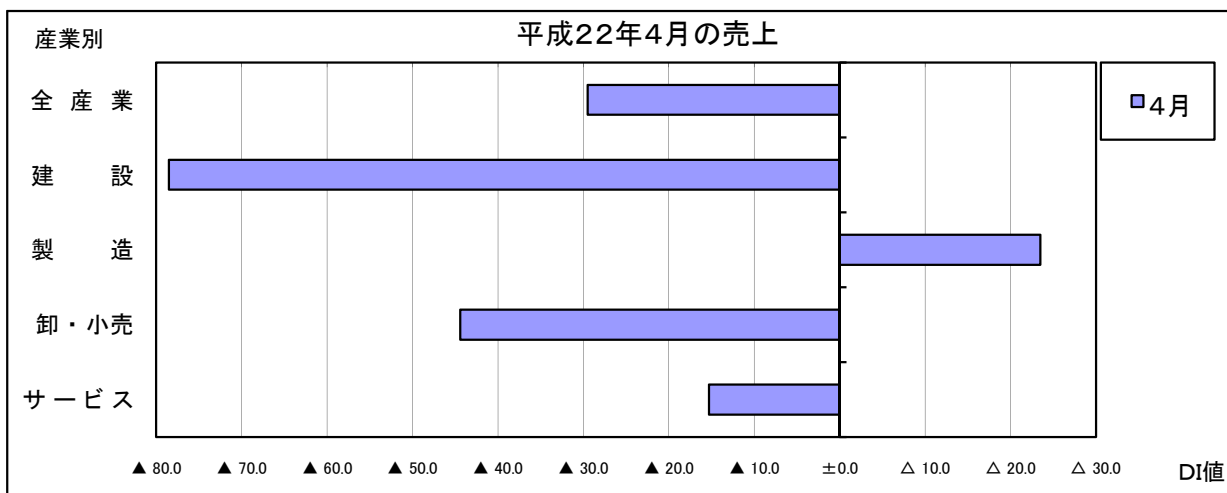
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△23.5(同±0.0)であり、△23.5ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲46.6)、卸小売業▲44.4(同▲48.1)であり、▲31.3ポイントと大幅に拡大した。変らない業種は、建設業▲78.5(同▲78.5)である

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.3(前月水準▲24.0)となり、マイナス幅が▲8.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲57.1(同▲64.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.4(同▲29.6)、サービス業▲23.0(同▲13.3)である。

平成22年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲64.0	▲60.5	▲51.3	▲43.2	▲41.3	▲29.5	▲32.3(▲24.0)
建設	▲60.0	▲73.3	▲73.3	▲71.4	▲78.5	▲78.5	▲57.1(▲64.2)
製造	▲81.2	▲47.0	▲11.7	▲29.4	±0.0	△23.5	±0.0(△5.2)
卸・小売	▲66.6	▲72.4	▲67.8	▲48.2	▲48.1	▲44.4	▲44.4(▲29.6)
サービス	▲42.8	▲40.0	▲41.6	▲21.4	▲46.6	▲15.3	▲23.0(▲13.3)



【平成22年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.2(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大した。

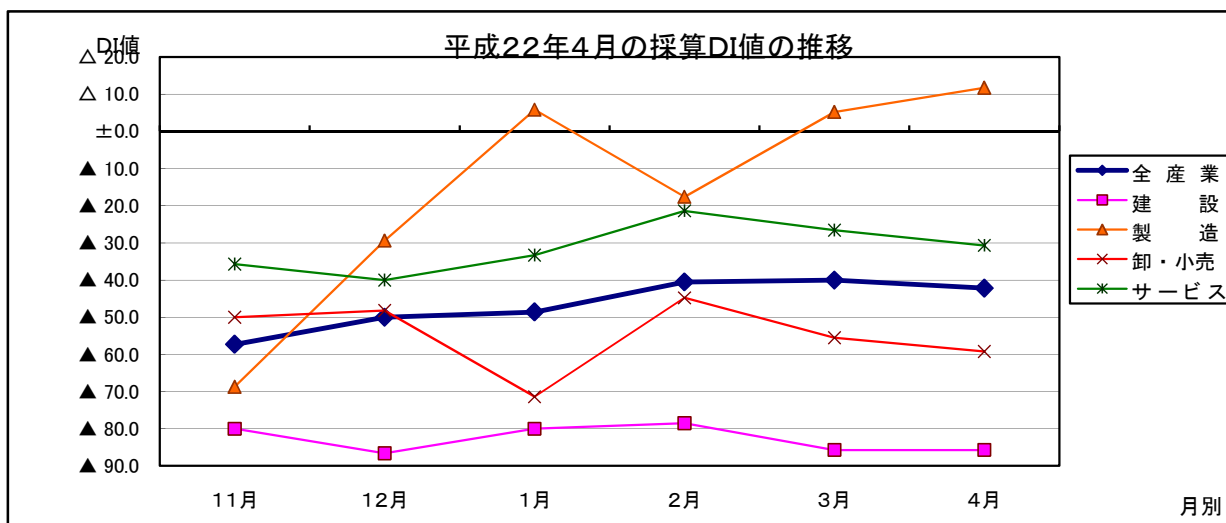
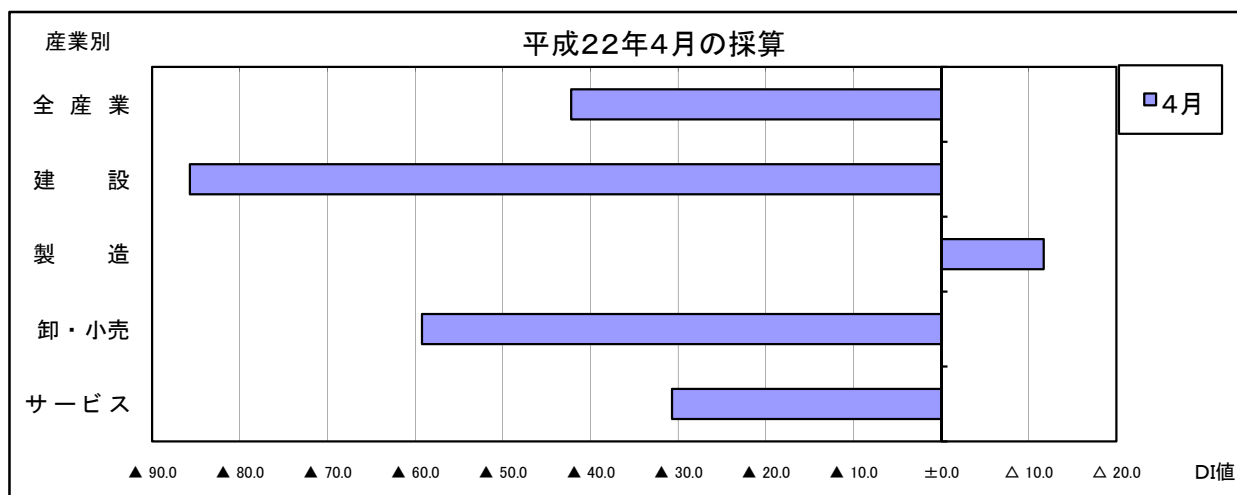
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△11.7(同△5.2)である。変わらない業種は、建設業▲85.7(同▲85.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲30.7(同▲26.6)、卸小売業▲59.2(同▲55.5)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.2(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲71.4)、サービス業▲23.0(同▲26.6)であり、特に、建設業はマイナス幅が△21.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同±0.0)、卸小売業▲48.1(同▲40.7)である。

平成22年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲ 57.3	▲ 50.0	▲ 48.6	▲ 40.5	▲ 40.0	▲ 42.2	▲ 35.2 (▲ 33.3)
建設	▲ 80.0	▲ 86.6	▲ 80.0	▲ 78.5	▲ 85.7	▲ 85.7	▲ 50.0 (▲ 71.4)
製造	▲ 68.7	▲ 29.4	△ 5.8	▲ 17.6	△ 5.2	△ 11.7	▲ 11.7 (±0.0)
卸・小売	▲ 50.0	▲ 48.2	▲ 71.4	▲ 44.8	▲ 55.5	▲ 59.2	▲ 48.1 (▲ 40.7)
サービス	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 21.4	▲ 26.6	▲ 30.7	▲ 23.0 (▲ 26.6)



【平成22年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が▲5.3ポイント拡大した。

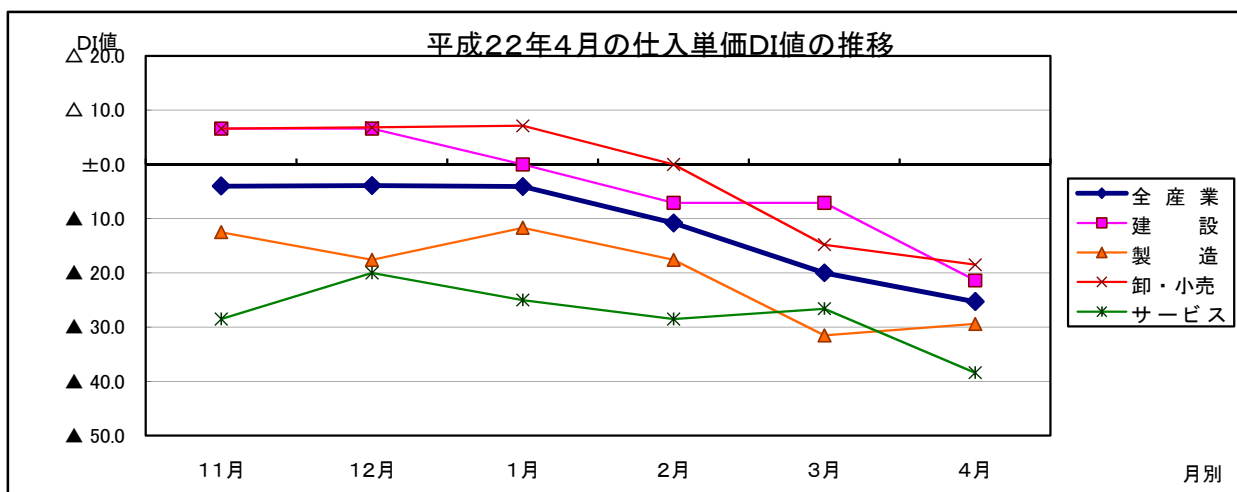
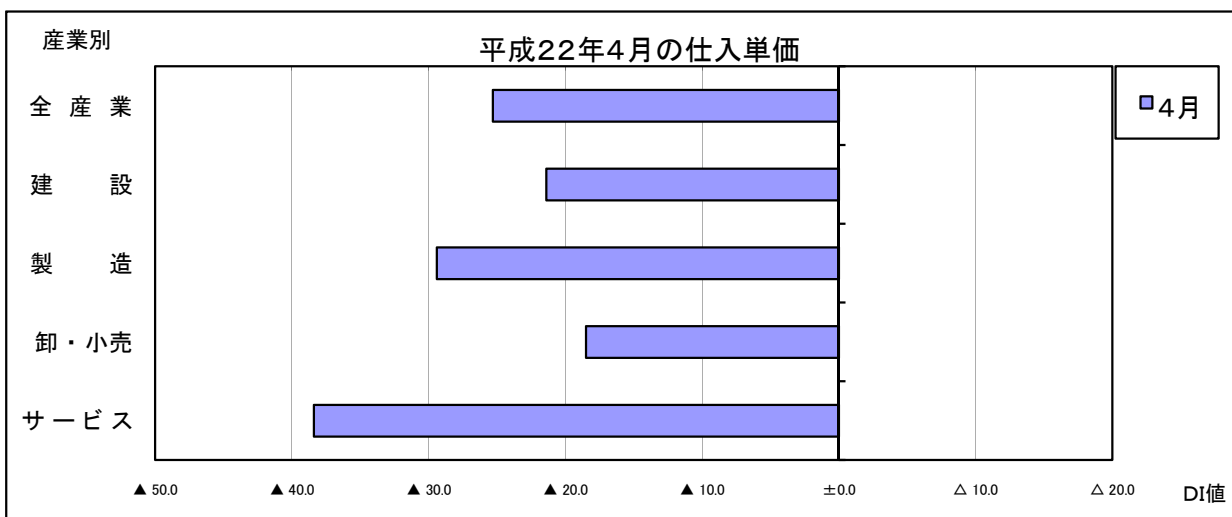
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲29.4(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.4(同▲7.1)、サービス業▲38.4(同▲26.6)、卸小売業▲18.5(同▲14.8)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.4(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲31.5)、建設業▲7.1(同▲14.2)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲3.7(同▲3.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲46.1(同▲26.6)である。

平成22年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲4.0	▲3.9	▲4.1	▲10.8	▲20.0	▲25.3	▲15.4(▲17.3)
建設	△6.6	△6.6	±0.0	▲7.1	▲7.1	▲21.4	▲7.1(▲14.2)
製造	▲12.5	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲29.4	▲17.6(▲31.5)
卸・小売	△6.6	△6.8	△7.1	±0.0	▲14.8	▲18.5	▲3.7(▲3.7)
サービス	▲28.5	▲20.0	▲25.0	▲28.5	▲26.6	▲38.4	▲46.1(▲26.6)



【平成22年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.0(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が△3.6ポイント縮小した。

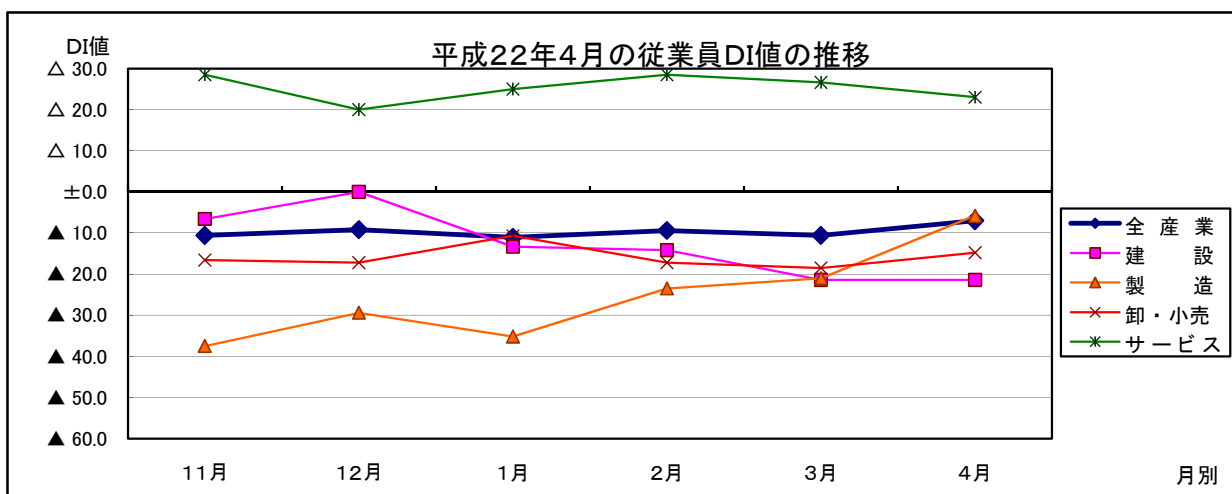
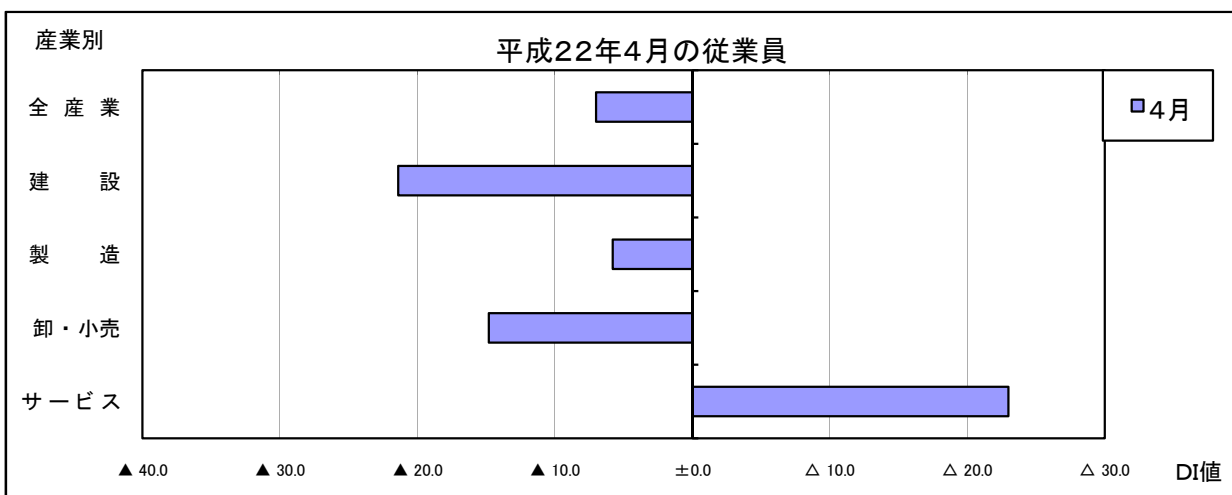
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲21.0)、卸小売業▲14.8(同▲18.5)である。変らない業種は、建設業▲21.4(同▲21.4)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△23.0(同△26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲21.4(同▲28.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△23.0(同△26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同±0.0)、卸小売業▲22.2(同▲18.5)である。

平成22年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲10.6	▲9.2	▲11.1	▲9.4	▲10.6	▲7.0	▲9.8(▲6.6)
建設	▲6.6	±0.0	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲21.4	▲21.4(▲28.5)
製造	▲37.5	▲29.4	▲35.2	▲23.5	▲21.0	▲5.8	▲5.8(±0.0)
卸・小売	▲16.6	▲17.2	▲10.7	▲17.2	▲18.5	▲14.8	▲22.2(▲18.5)
サービス	△28.5	△20.0	△25.0	△28.5	△26.6	△23.0	△23.0(△26.6)



【平成22年4月の資金繰りについての状況】

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.5(前月水準▲22.6)となり、マイナス幅が△0.1ポイント縮小した。

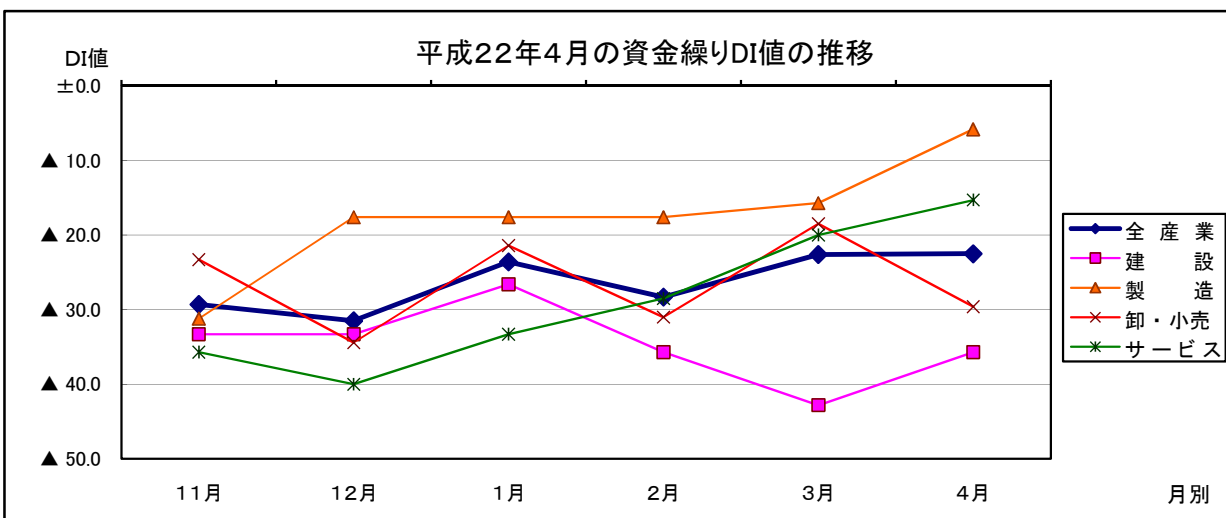
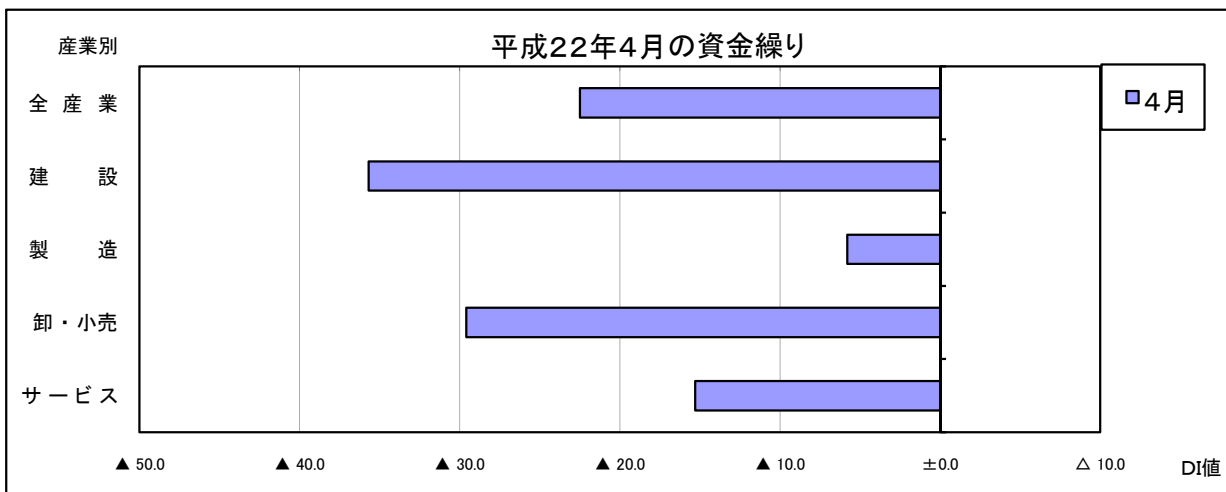
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲15.7)、建設業▲35.7(同▲42.8)、サービス業▲15.3(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲29.6(同▲18.5)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲21.3)となり、マイナス幅が△1.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲35.7)、サービス業▲15.3(同▲20.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が△21.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲10.5)、卸小売業▲25.9(同▲22.2)である。

平成22年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲29.3	▲31.5	▲23.6	▲28.3	▲22.6	▲22.5	▲19.7(▲21.3)
建設	▲33.3	▲33.3	▲26.6	▲35.7	▲42.8	▲35.7	▲14.2(▲35.7)
製造	▲31.2	▲17.6	▲17.6	▲17.6	▲15.7	▲5.8	▲17.6(▲10.5)
卸・小売	▲23.3	▲34.4	▲21.4	▲31.0	▲18.5	▲29.6	▲25.9(▲22.2)
サービス	▲35.7	▲40.0	▲33.3	▲28.5	▲20.0	▲15.3	▲15.3(▲20.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.5	▲ 32.3	▲ 42.2	▲ 35.2	▲ 25.3	▲ 15.4	▲ 7.0	▲ 9.8
建設	▲ 78.5	▲ 57.1	▲ 85.7	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 21.4
製造	△ 23.5	±0.0	△ 11.7	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 5.8	▲ 5.8
卸・小売	▲ 44.4	▲ 44.4	▲ 59.2	▲ 48.1	▲ 18.5	▲ 3.7	▲ 14.8	▲ 22.2
サービス	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 38.4	▲ 46.1	△ 23.0	△ 23.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 39.4	▲ 25.3	▲ 22.5	▲ 19.7
建設	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 14.2
製造	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 17.6
卸・小売	▲ 48.1	▲ 25.9	▲ 29.6	▲ 25.9
サービス	▲ 38.4	▲ 23.0	▲ 15.3	▲ 15.3

【平成22年4月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	依然として厳しい状況が続いています。 少しも良くならないと思います。	厳しい業況	一般土木建築工事業
	仕事の受注が少ない時期に正社員の育成に時間を使う、丁寧正確な仕事を覚えさせる良い時期と思う。	景気回復実感なし 受注減少	塗装工事業 管工事業(さく井を除く)
	社員一人一人の現状の自覚と危機感が乏しいので経常利益減少から脱却できないでいる	社員育成 社員の危機感 利益減少	管工事業(さく井を除く)
	4月に入り、軒並み仕入単価が上がっている。新設の工事から改修工事への交換が多い	仕入単価上昇 改修工事増加	電気工事業
製造	売上は回復してきたが、リーマンショック以前には及ばない	売上げ回復 リーマンショック	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	設備の増設がなかなか見えてこず、新聞テレビ等で言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関連業界においても、継続的な受注に至る保証がないという声が聞こえてきている。	設備投資不透明 景気回復実感なし	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	現状を維持するのも困難になってきています 前月は対前年比ではマイナスであるが、売上の基調は若干上向き傾向となりつつあった。気候の不順など売上に影響があったとみられる。入店客数も若干戻り傾向であり、消費者の節約疲れもあるのでは	現状維持困難 売上上向き傾向 天候不順 節約疲れ 入店客数回復	食料・飲料卸売業 百貨店
	今年の春は異常気象とも言える低温、長雨、日照不足の影響により野菜や果実に一部被害が出て、大幅な入荷減少で価格高騰しています。安定供給できるよう努力していますが、今後も天候不順の見込みがあり、入荷不足と厳しい面がありますが、いっそう努力を進めていきたい。今月の景気は一時的なものと考え、その反動の対応も考えていかねばならないと思っています。	天候不順 入荷減少 青果価格高騰 経営努力	食料・飲料卸売業
	新規開拓や販売努力をし、新学期用品が好調で前年度を上回った。次の目標は夏物衣料等の販売拡充商戦に入りました。ただ、近辺では業務縮小等の話を多く聞く。	新規開拓 販売努力 夏物拡充	その他の飲食物品小売業
	利益がなく苦しいが、仕事量は多く限界を感じているので、1~2名正社員の採用準備中。まさに利益とは裏腹である。	利益不振 仕事量過多 社員採用	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	政治の安定が望まれる。少子高齢化の中で継続可能な経済財政政策 低額商品しか売れないような環境の中でさらに天候不順が追い打ちとなり、業種を問わず売上げ不振である。	政治の安定 天候不順 売上不振	書籍・文房具小売業 その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	3月に回復の兆しが見えた商況だが、4月に入り入店客数は前年並みの推移ではあるものの、気温の寒暖が激しく売上高は衣料品を中心に日々安定せず苦戦した。しかし、ショッピングモール全体での抽選イベントにより客単価を押し上げられる店舗も見られ、応募数も好評であった。月末にかけても新たなキャンペーンを開催し、集客を図り売上げにつなげていく。	回復の兆し 売上不安定 イベント 集客努力	各種商品小売業
	最近お客様の好みや利用理由が多様化している上に、客単価の低下が著しい。利益が出にくい構造になりつつある。 宴会はやや上向きも宿泊はビジネス客が減少し厳しい状況	ニーズの多様化 客単価低下 宴会上向き 宿泊減少 厳しい業況	食堂・レストラン ホテル
多少光が見えてきた感じがする。歓送迎会等の宴会が増加している。平日の売り上げは最悪の日もあり難しい時代であることは間違いないと感じています。	宴会増加 平日悪化 厳しい業況	酒場・ビヤホール	

◎厳しい業況

- ・ 依然として厳しい状況がつづいています。 一般土木建築工事業
- ・ 宴会はやや上向きも宿泊はビジネス客が減少し厳しい状況 ホテル
- ・ 平日の売り上げは最悪の日もあり難しい時代であることは間違いないと感じ 酒場・ビヤホール
ています。

◎社員採用育成

- ・ 仕事の受注が少ない時期に正社員の育成に時間を使う、丁寧正確な仕事を 管工事業(さく井を除く)
覚えさせる良い時期と思う。
- ・ 社員一人一人の現状の自覚と危機感が乏しいので経常利益減少から脱却 管工事業(さく井を除く)
できないでいる
- ・ 利益がなく苦しいが、仕事量は多く限界を感じているので、1～2名正社員の 燃料小売業(ガソリンスタンド)
採用準備中。まさに利益とは裏腹である。

◎景気回復実感なし

- ・ 少しも良くならないと思います。 塗装工事業
- ・ 設備の増設がなかなか見えてこず、新聞テレビ等で言われ始めている「景気 その他の機械・同部分品製造
が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関連業界においても、継続的
な受注に至る保証がないという声が聞こえてきている。











平成22年4月のCCI LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.4に対し、「CCI-LOBO」が▲45.7で、柏の方がマイナス幅が6.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲41.1で、柏の方がマイナス幅が11.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.2に対し、「CCI-LOBO」が▲42.6で、柏のほうがマイナス幅が0.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で、柏の方がマイナス幅が5.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.0に対し、「CCI-LOBO」が▲14.1で、柏の方がマイナス幅が7.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.5に対し、「CCI-LOBO」が▲31.1で、柏の方がマイナス幅が8.6ポイント小さい。全ての業種が「柏の景気」の方が良く、特に製造業・サービス業は10ポイント以上良い。











平成22年4月の木の景気天気図








木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較




景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 39.4	 64.2	 5.8	 48.1	 38.4
CCI LOBO	 45.7	 59.6	 30.6	 50.9	 45.5


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 29.5	 78.5	 23.5	 44.4	 15.3
CCI LOBO	 41.1	 59.5	 20.0	 48.9	 40.4


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 42.2	 85.7	 11.7	 59.2	 30.7
CCI LOBO	 42.6	 57.7	 31.9	 48.5	 39.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 25.3	 21.4	 29.4	 18.5	 38.4
CCI LOBO	 19.4	 26.5	 23.5	 9.8	 24.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 7.0	 21.4	 5.8	 14.8	 23.0
CCI LOBO	 14.1	 27.6	 16.7	 9.7	 7.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 22.5	 35.7	 5.8	 29.6	 15.3
CCI LOBO	 31.1	 40.6	 26.0	 32.8	 30.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(4月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年4月16日～22日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数71

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
見通し	▲25.3	▲42.8	▲11.7	▲25.9	▲23.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DI5カ月連続で回復傾向だが依然厳しい業況

4月の全産業合計のDI値(前年同月比)ベース、以下同じには、39.4(前月水準42.6)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業5.8(同21.0)、サービス業3.8(同4.0)である。変らない業種は、建設業6.4(同6.4)、卸小売業4.8(同4.8)である。

(同48.1)である。

【建設業】からは、「4月に入り、軒並み仕入単価が上がっている。新設の工事から改修工事への交換が多い」「(電気工事業)というコメントがあった。

【製造業】からは、「売上は回復してきたが、リーマンショック以前には及ばない」「(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)といった声も寄せられた。

【卸小売業】からは、「前月は対前年比ではマイナスであるが、売上の基調は若干上向き傾向となりつつあった。気候の不順など売上に影響があったとみられる。入店客数も若干戻り傾向であり、消費者の節約疲れもあるのでは」「(百貨店)、「新規開拓や販売努力をし、新学期用品が好調で前年度を上回った。次の目標は夏物衣料等の販売拡充商戦に入りました。ただ、近辺では業務縮小等の話を多く聞く」「(その他の飲食料点小売業)、「3月に回復の兆しが見えた商況だが、4月に入り入店客数は前年並みの推移ではあるものの、気温の寒暖が激しく売上高は衣料品を中心に日々安定せず苦戦した。しかし、ショッピングモール全体での抽選イベントにより客単価を押し上げられる店舗も見られ、応募数も好評であった。月

末にかけても新たなキャンペーンを開催し、集客を図り売上につなげていく」「(各種商品小売業)といった回復の兆しを感じる声も寄せられた。

【サービス業】では、「最近お客様好みや利用理由が多様化している上に、客単価の低下が著しい。利益が出にくい構造になりつつある」「(食堂・レストラン)といったコメントがあった。

四月の景気キーワード

厳しい業況

各業種から、「依然として厳しい状況が続いています」「(一般土木建築工事業)、「宴会はやや上向きも宿泊はビジネス客が減少し厳しい状況」「(ホテル)、「平日の売り上げは最悪の日もあり難しい時代であることは間違いなく感じています」「(酒場・ピヤホール)などの声が多数寄せられました。

社員採用育成

各業種から、「仕事の受注が少ない時期に正社員の育成に時間を使つ、丁寧正確な仕事を覚えさせる良い時期と思つ」「(管工事業)さく井を除く)、」「社員一人一人の現状の自覚と危機感が乏しいので経常利

益減少から脱却できないでいる」「(管工事業)さく井を除く)、「利益がなく苦しいが仕事量は多く限界を感じているので、1〜2名正社員の採用準備中。まさに利益とは裏腹である」「(燃料小売業ガソリンスタンド含まず)などのコメントが寄せられている。

景気回復実感なし

各業種から、「少しも良くならないと思います」「(塗装工事業)、「設備の増設がなかなか見えてこず、新聞テレビ等と言われ始めている」「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。関連業界においても、継続的な受注に至る保証がないという声が聞こえてきている」「(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられている。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が39.4に対し、「CCI LOBO」が45.7で柏の方がマイナス幅が6.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：平成22年4月17日～24日

調査対象：全国の409商工会議所が2653業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIのマイナス幅は4 カ月連続で縮小

4月の全産業合計の業況DIは45.7(前月比+3.6ポイント)と、マイナス幅が4カ月連続で縮小した。比較対象となる昨年4月の業況DIが70.4と、極めて低い水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に、着実に持ち直しの動きが続いている。しかし、大幅な需要不足によるデフレなどの影響により、水準は依然厳しい状況が続いている。各地からは、「消費の低迷に加えて、天候不順により厳しい状況が続いている」との声が寄せられている。

先行きについては、39.1(前月比+3.4ポイント)と、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。建設業では、公共工事の増加が見込めず、厳しい状況が続く見通しだが、その他の業種では、売上・受注が回復傾向にあり、先行きに期待する声が多く寄せられている。しかし、原材料価格の上昇が今後の懸念材料になっており、先行き見通しには慎重な声が依然として根強い。

【建設業】「公共工事の削減に加え、民間企業からの受注減少によ

り引き続き厳しい経営状況」(建築工事業)、「市発注の22年度工事の発注が見込めない」(一般土木建築事業)、「住工工コポイント制度の効果による受注増を期待」(建築事業)

【製造業】「主力輸出市場の中国向け受注に回復の兆しが見えてきたのが明るい材料」(繊維機械製造業)、「仕事があっても低価格で納期が短く、収益に結び付かない状況」(金属加工機械製造業)、「仕事量は僅かながら増加傾向にあるが、4月より鋼材価格が値上がりし、採算面では厳しい状況にある」(自動車・同附属製造業)

【卸売業】「天候不順のため野菜の価格が高騰し、売上の見通しが立てづらい」(農産物・水産物卸売業)、「大型工事の減少により、売上も悪化している」(建築材料卸売業)、「自動車販売は、減税措置の効果により一定の水準を維持できているがそれが終了する10月以降は、反落するのではないかと、不安がある」(自動車卸売業)

【小売業】「今月初めに好転の兆しもあったが、中旬の気温低下により、婦人衣料が苦戦」(百貨店)、「石油販売業は、原油価格の高騰に伴って販売価格の上昇から顧客離れが進み、益々厳しい経営状況にある」(その他の小売業)、「天候不順により、高齢者を中心に客

足が鈍くなっている」(商店街)

【サービス業】「3、4月は歓送迎会の時期で需要はあるが、それが終わると見通しはあまりよくなさそう」(すし店)、「天候不良による野菜等の値上がりで食材の仕入価格が上昇しており、利益の確保が難しくなっている」(旅館)、「例年になく気温の低さから雪解けがかなり遅く、衣替えによるクリーニング量がなかなか増えない」(洗濯)

四月のキーワード

仕入価格の上昇への懸念

春先の天候不順による野菜等の仕入れ価格の上昇、原油・原材料価格の上昇による悪影響を訴える声が多く寄せられた。「材料価格が上昇しても、転嫁できないどころか受注金額が下落している」(古河・電気工業)、「受注量は増加傾向であるが、材料価格が急騰している。値上り分を販売価格に転嫁できそうになく、収益が圧迫されそう」(佐野・金属加工機械製造業)、「天候不順による野菜価格の上昇や、ヨーロッパからの食材の輸入が空港閉鎖により滞っていることの影響が出ている」(伊万里・食料レストラン)、「原材料価格が5月より大幅に上昇することが決まっております、それを製品価格

に転嫁できるかが問題である」(桑名・鉄骨材製造業)

根強い消費者の低価格意識

宝飾品などの一部高額品の売上が回復する兆しが出ているものの、消費者の低価格志向は根強く購入単価の低迷が続いているとの声が多い。「消費は依然として冷え込んでおり、価格に非常に敏感である。競合店も価格に対して敏感で、毎日1円2円を争う状況である」(藤・総合スーパー)、「消費の低迷は依然続いており、低価格商品にどうしても人が流れてしまつ」(塩尻・商店街)、「消費者の財布のひもが固い状況が続いており、値上げができる状況にない」(倉敷・パン・菓子製造業)

依然として厳しい雇用情勢

業況が改善傾向にあり、優秀な人材を確保したいという声はあるものの、雇用情勢は厳しいという声が多い。「雇用維持の方策として、平成22年度の定期昇給を行わないことにした」(秋田・農産物・水産物卸売業)、「受注量は徐々に上がってはいるが、微増であり、まだ従業員の雇用調整をしている状況」(銚子・その他の輸送用機械器具製造業)、「今年度の採用予定はない。雇用維持のため派遣職員で対応している」

(檀原・旅館)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
見通し	▲39.1	▲58.3	▲30.0	▲33.8	▲40.9	▲35.8

「見通し」は当月水準に比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI